

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ③⑥

『3. 11 家庭防災の日』

平成23年(2011)3月11日、東日本大震災が起きました。私は蛭間小学校の職員室で、校舎がゆっくり大きく揺れるのを経験しました。時間が長く、気分が悪くなりました。テレビを付けると東北地方の海岸に津波が押し寄せているシーンをみました。その前年の秋に東北地方に行ったばかりで、どこかで見た風景が海水に飲み込まれ、その姿がテレビに映っていました。

毎年3月を迎えると東日本大震災を、また1月には阪神淡路大震災を思い出します。日本という国は地震列島です。地震は一瞬ですべてのものを失います。火事や津波が起きると被害が大きくなります。ある期間に一度に、あるいは続けて襲ってきます。この地方でも明治の濃尾地震、安政の大地震と本当に大きな被害が起きました。

津島市では毎月第3日曜日を『家庭防災の日』と決め、家族ぐるみで災害に備えて頂く日としています。学校でも毎月第3日曜日の前後に、朝の会や朝礼で、防災・減災の話をお願いしています。学校のHPやたよりで「災害」「犯罪」「交通安全」について呼び掛けて頂いています。ちなみに3月は自分の家のまわりの危険箇所、通学路の確認となっています。

防災・減災についての課題は、地域全体で防災訓練を繰り返すことです。学校だけでなく、町内会や高齢者の皆さんと一緒に避難訓練や防災講座を行うことです。市では3年に一度小学校区ごとに防災訓練を計画しています。

2月24日、南小でフィリピン領事館との交流が終わり、今年は8小学校で名古屋にあるすべての領事館との交流活動を行うことができました。南小では、総領事からフィリピンにルーツをもつ子どもたちに声を掛けて頂きました。それぞれの学校が、工夫を凝らして津島の歴史文化や学校紹介をしてくれました。領事とゲームをしたり、書を書いたり、お茶やお花を行った学校もありました。ダンスや切り絵に挑戦した学校もありました。これらの活動を通して、日本と異なる歴史文化と出逢い、多様性について考えることができました。蛭間小では、トルコ領事館と交流した直後にトルコ・シリア地震が起き、6年生の子どもたちが全校に呼び掛けて、募金活動を行いました。今後はその日だけで終わらない、息の長い交流活動、例えばオンラインによる遠隔授業やビデオ通信などができないかと考えてるところです。

寒風や卒業を待つ時計塔
校庭に上げば尊し春の風

令和5年3月6日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視